

うきょうくのふくしのまちづくりにふれる

# うふふ

～あなたの声を届けたい～



集合住宅ならではの  
つながりのカタチ

地域から始まる  
住民の買い物を  
支える



## TOPIC 活動者の「声」から見える風景

地域と多機関  
ともに居場所を  
つくる

出会いから生まれる  
新たな一歩



発行／社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会・右京区地域支え合い活動創出コーディネーター

〒616-8511 京都市右京区太秦下刑部町12 右京区総合庁舎5階

● TEL (075)865-8567 / FAX(075)865-8569 ● E-Mail info@ukyoku-syakyo.net



## 活動者の「声」から見える風景-その4



左からまるちゃんスマホ 梅原代表  
ひろさわお楽しみクラブ 生石代表・南藤さん

### 出会いから生まれる 新たな一歩

(ひろさわお楽しみクラブ 生石代表  
まるちゃんスマホ 梅原代表にきく)

福祉のまちづくりに関わる人同士が出会う、情報交換会「うふふ」の開催から新たな活動が生まれている。



お互いを知り、  
見えてきたこと  
楽しいと  
人が人を呼ぶ

代表者同士の出合い  
とつながりから、ポー  
ドゲーム(ひろさわお  
楽しみクラブ)とスマ  
ホ相談(まるちゃんス  
マホ)同時開催が実現  
した。当日はそれぞれ  
の参加者にも新たな交  
流が生まれていた。

「新たな出合いは人  
の輪を広げ、それは自  
分の財産になります。  
高齢になっても、そん  
な機会が必要だと思っ  
ます」生石代表。

「活動を色々な人に  
知ってもらい、参加し  
ただけたら嬉しいです  
ね」梅原代表も笑顔で  
話す。

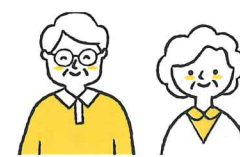
「ひとりであると思  
うことは少ないと思  
います。こうやって声  
を上げて笑ったり、笑  
顔になつたりするのは、  
人と関わるからこそ  
もおられた。

当日、印象的だった  
のは一人ひとりの笑顔  
だ。ゲームでは時に声  
をあげて喜ぶ様子も見  
られた。スマホ相談で  
は「わからないことは  
何度でも聞きに来てと  
言ってくれました」安  
心した表情を見せる方  
もおられた。

「楽しいと人が人を呼  
びます。参加したり、  
活動することの楽しさ  
を伝えたいですね」と  
代表のお二人は語る。

あなたも  
始めてみませんか？

「居場所をつくりたい」「自分の特技を活かしたい」そんな「やりたい」を支え合い活動に活かしてみませんか？お気軽にお問い合わせください。



地域支え合い活動創出  
コーディネーターの役割

地域にある生活支援  
サービスの把握  
生活支援の担い手の  
養成・活動支援

意見交換等の実施、  
ネットワークづくり  
生活支援サービス創出の  
企画・支援



右京区の活動に関するお問合せ

・右京区社会福祉協議会  
・右京区地域支え合い  
活動創出コーディネーター

☎075-865-8567



ホームページ

うふふ うきょうくのふくしのまちづくりにふれる / 令和8年2月発行

発行／社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会・右京区地域支え合い活動創出コーディネーター\*

\*京都市が地域で高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、ネットワークの構築を目的として各区社会福祉協議会に配置しているコーディネーターです。



## 活動者の「声」から見える風景-その2



嵯峨社協・自治会連合会のみなさん  
一番左が嵯峨社協 高井会長

### 地域から始まる 住民の買い物を支える

嵯峨社会福祉協議会 高井会長にきく  
観光地としても名高い右京区嵯峨。南北に広いこの学区では、北部で移動や買い物について困りの声があった。



様々な立場の人が集い、動き出す。「自治会連合会で北部の買い物ニーズは把握していましたが、学区社協にできることがあるか考えていた時に、地元の福祉施設から地域に貢献したいと相談を受けました。高井会長が語る。そこで、より多くの人と課題を協議するために、区社協や区役所にも声をかけを行った。こうして、令和6年7月より、地域福祉・行政での話し合いを開始。令和7年3月からは「嵯峨野ケアセンターそば」にも会場協力を得て、移動販売車の「自治会連合会で北部の買い物ニーズは把握していましたが、学区社協にできることがあるか考えていた時に、地元の福祉施設から地域に貢献したいと相談を受けました。高井会長が語る。そこで、より多くの人と課題を協議するために、区社協や区役所にも声をかけを行った。こうして、令和6年7月より、地域福祉・行政での話し合いを開始。令和7年3月からは「嵯峨野ケアセンターそば」にも会場協力を得て、移動販売車の



## 活動者の「声」から見える風景-その3



左から岡村さん・川下さん

### 地域と多機関 ともに居場所をつくる

梅津富士園・居宅介護支援事業所 川下さん  
梅津地域包括支援センター 岡村さんにきく



「町内会がなくなっているか、団地にどんな人がいるかわかりませんでした。青嶋代表は当時を振り返る。住民同士の関わりが希薄化する中で、誰もが孤独を感じていた。そんな時、コーディネーターが開催していた居場所講座の案内が目にとまり、参加した。講座を受けた後、アンケートに青嶋代表はこう記入した。「この取組(居場所)は、続けたいという意味がありません」これをきっかけに、コーディネーターの呼びかけで講座参加者の有志が集まり、「なかよし会」の活動がスタートした。「場」があるからできたこと。なかよし会は「参加は強制しない。ゆるく自由な雰囲気大切に」がモットーだ。喫茶やゲーム、レコード鑑賞等の活動は、どれも参加者のやりたいことや特技から始まっている。「生活のちよつとしたことを相談したり、外で会っても話ずようになりました」参加者も笑顔を見せる。顔の見える関係があるから、自然とお互いを気に掛け合い、住民同士支え合いの輪が広がっている。



## はじめに



本紙を手にとっていただき、ありがとうございます。ここでは、右京区地域支え合い活動創出コーディネーター(以下、コーディネーター)が、右京区の福祉のまちづくりに取り組む方々からお聞きした「声」を記載しています。

当事者の声は、日々の暮らしから発せられます。一人ひとりの声は個人的なものでも、それらが集まることで社会的・公共的なもの

となっていきます。その声を伝えたく、本紙を作成しました。

今回取り上げた4つの事例は、どれも「誰かのため」に、「楽しさ」や「協働すること」を大切に活動ばかりです。活動者の姿はとて魅力的で、4つの事例を通じて支え合い活動を身近に感じてもらえたら嬉しく思います。

## 作成にあたって

令和7年度に実施した「地域支え合い活動実態調査」「各地域包括支援センターとの情報交換」で届けられた声も、一部掲載しました。ご協力いただいた皆様には、あらためて感謝申し上げます。



## 活動者の「声」から見える風景-その1



なかよし会 青嶋代表

### 集合住宅ならではの つながりのカタチ

「なかよし会」青嶋代表にきく

お寺や学校に囲まれ、緑豊かな敷地内が特徴のこの団地で、毎週集会室から笑顔あふれる声が聞こえてくる。



「町内会がなくなっているか、団地にどんな人がいるかわかりませんでした。青嶋代表は当時を振り返る。住民同士の関わりが希薄化する中で、誰もが孤独を感じていた。そんな時、コーディネーターが開催していた居場所講座の案内が目にとまり、参加した。講座を受けた後、アンケートに青嶋代表はこう記入した。「この取組(居場所)は、続けたいという意味がありません」これをきっかけに、コーディネーターの呼びかけで講座参加者の有志が集まり、「なかよし会」の活動がスタートした。「場」があるからできたこと。なかよし会は「参加は強制しない。ゆるく自由な雰囲気大切に」がモットーだ。喫茶やゲーム、レコード鑑賞等の活動は、どれも参加者のやりたいことや特技から始まっている。「生活のちよつとしたことを相談したり、外で会っても話ずようになりました」参加者も笑顔を見せる。顔の見える関係があるから、自然とお互いを気に掛け合い、住民同士支え合いの輪が広がっている。

